

市長が平成 28 年 10 月 14 日に開催された「愛知県地域再生・まちづくり研究会」で研究会会員から頂いた意見について、政策秘書課職員に話をした内容です。

市長の役割

先日、公益財団法人杉浦記念財団が主催する、「愛知県地域再生・まちづくり研究会」に講師として招かれました。話を聞いていただく研究会会員やオブザーバーの皆さんは、いわばまちづくりのプロフェッショナルの方々なのですが、せんえつながら話をさせて頂きました。

そこで、私の政策理念と、その理念を施策に反映させようと日々戦っているものの、現実にはなかなか反映できず課題が多いこと等をお話しし、逆にどのようにしたらよいか研究会会員の皆さんからご意見を頂くことができました。

多くのご意見を頂いたのですが、その中でも特に印象に残ったのは「市長の役割」についてでした。

その話をされた会員の方は、かつてある市の首長を務められた方で、いわば私の先輩にあたります。その方がおっしゃるには、市長は消耗品で職員は備品だと言うのです。市長は任期を終えれば次へと変わっていくいわば消耗品で、職員は 40 年近く働く備品であると。だからこそ、市長に必要とされることは、備品を磨き、その能力を発揮できるよう適切に配置を行い、安定志向の職員をどう変えていくか、長期的なビジョンを示し実現するための組織の役割付けや体制を整えることが最も重要であり、これらを実現するためにリーダーシップを発揮して進めていかなければならないという話でした。

職員を磨き、適切に配置し、組織体制を整えるということは、私も強く必要だと感じていたことです。各事業のスペシャリストであるとともに、まちづくりにかける熱意や思いを持った職員を原動力としないと市民の幸せのための仕事を行うことができません。超高齢・人口減少となり、財源不足に陥っていく市町村間では人口増加の取組の競争が発生しています。このような状況下では独自性を出さないと市町村も生き残れません。市民の幸せのために何ができるのかという、熱い職員の思いが必要なのだと思います。

市民の幸せのために、私は何ができるのか、市長の役割を改めて考えさせられる出来事でした。

～市長の話を聞いて～

市長からまちづくりにかける熱意や思いが必要といわれ、これまでそうしたことをあまり考えなかった自分は、はたして自分の中に周りを動かすような熱意があるのか、どのようなまちづくりへの思いがあるのだろうと考えさせられました。どのような部署でも、市民の幸せのために自分は何ができるのだろうと考え、それを仕事に反映させていくことが職員の役割なのだろうと思います。